

会 議 録

会議の名称	中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）について 市民説明会
日時	平成 27 年 9 月 14 日（月） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 28 分
会場	中野市立日野小学校体育館
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・参加者 85 人・教育委員会出席者 10 人 教育委員 4 人、教育委員会事務局 6 人・報道機関 1 人
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 あいさつ3 基本方針（案）について4 質疑5 閉会
発言内容等	別紙のとおり

(別紙)

1 開会 進行：教育次長

2 あいさつ 教育委員長

3 基本方針（案）について 学校教育課長から資料に基づき説明

4 質疑

意見

- 資料5の統合後について、2年生は2学級、残りは1学級です。資料1には、残りの学年も2学級になるとありますが、これはどのような意味ですか。

回答

- 資料5については、県の基準で30人規模学級ですと、1クラスが35人までとなり、39人ですと2クラスになりますが、1年生・3年4年5年6年生については35人前後でそれぞれ推移しておりますので、もし1人2人増えた場合には2クラスになる可能性があるということです。

意見

- 日野小学校が5年後には無くなってしまおうとお聞きして、ここの地域に住む者として、また子どもを持つ者として、かなり大きな衝撃を受けた一人ということになりますが、日野小学校は先生方のご尽力や児童たちも本当によくがんばっているというか努力をして、日頃から素晴らしい教育活動が行われているものと感じています。特に音楽会とか、運動会などの取り組みに関しては、少人数ではあるんですが、少人数であることを最大限に生かした内容で、本当に目を見張るものというか、子どもたちのがんばりが本当にすごいなと、どこに出しても、誰に見てもらっても絶対感心してもらえそうな取り組みができていて感じています。1年生から6年生までみんなで協力し、一緒に勉強し、一緒に遊ぶ姿は、見ていて大変微笑ましいです。地域の取り組みでは、幼児の読み聞かせなどの活動もあり、地域に広く根ざし、日野小学校の歴史や伝統をしっかり引きついでいるんだなと思い、先生方にはとても感謝をしているところです。日野小学校のPTAの役員ということもありますので、保護者の中にも当然賛成、反対、統合に関して色々な意見をお持ちです。夏休み明けにPTAでアンケートを取らせていただき、先生方にもご尽力をいただきました。総数で62の家庭から回答をいただきました。このアンケートの数字的な部分を申しますと、賛成で13、反対で28、現時点ではまだ判断できないというご家庭が21という結果です。賛成、反対だけではなく、記述で色々なことをたくさん書いていただき、保護者の方の切実な思いというのが本当に伝わってまいりました。アンケート内容、記述のところからご紹介したいと思います。反対意見のところにはこの地域から小学校が無くなってしまおうということに強い抵抗感を持っています。この日

野の地域とともに歩んで中山晋平先生を始めとする偉大な先人を排出してきた学校に対し、非常に敬意を払い、またこの地区の保護者の方も、またその親という形でこの学校に通われているということ、そういうところで強い思いを持たれているということを感じます。現在の日野小学校の少人数ならではのきめ細かい指導、教育内容に非常に満足しているという回答もありますし、そういうところから統合の必要を感じないだから反対という意見もたくさんありました。また今回延徳小学校と統合しても、30人規模の学級で1クラスでは適正ではないのではないか、だから反対という意見もありました。また、今回手をつけないという通学区の関係にもなんとかして欲しいという意見も出ています。どちらとも言えないというところでは、本当に多いのはまだわからない、この案が出ても、これからどのように変わっていくか見えないという形の意見が多いです。さらに、日野小が消滅するとこの地域はどうなるのだろう、この地域にとってどういうダメージを受けるのかということに不安を持っておられるという方がたくさんいらっしゃいます。賛成意見という形で13の回答がありましたけれども、どの賛成に関しても、実は通学路の整備やスクールバス、登下校の安全、これを心配している声がたくさんありました。他にも小学校の名前に日野を残して欲しいとか、適正人数の確保を求めるのなら統合はやむを得ないけれど、延徳と日野だけじゃなくて中野小学校も考えて欲しいとか、もう全体を中野小と統合して、中野高校の跡地の利用を含めた中でこの地域の小学校を考えて欲しいという意見もありました。いずれにせよ今日この後たくさんご意見が出るとは思いますが、この説明会を受けたうえで、今後の検討事項も含めて、もっと話さなければいけない事がたくさんあると思います。この日野地区の、中野市の未来を担う子ども達の教育環境を、私たちがどのように作ってあげられるのかという所が一番の争点だと思いますので、これからまたPTAや地域や教育委員会の皆さんと十分な協力をして、なるべく話し合う機会をたくさん作っていただいて、全員が納得というわけにはいかないとはいえませんが、みなさんがこういう形でというところで納得する部分を作っていただきたいという要望です。あと今日の時間でいうと、子どもさんをお持ちの家庭では、出にくいと思いますので、時間設定等も含めてご相談いただければと思います。

意見

- この説明会は合併ありきの説明会と感じております。2.3日前ですが地域住民の皆さんにこの説明会の話をしたら、もう合併が決まっているんじゃないかと皆さんが思っているわけです。今後この説明会を2回3回と進めていかれるか、今後の方針等についてお聞かせください。

回答

- 地域の保護者の声ということで色々まとめていただき、大変参考になりました。私も去年運動会を見させていただきましたが、すばらしい動きをしていました。子ども達はグラウンドへ出て色々な種目をやり、係活動も同時にやり、まさにフル回転で、よくやっているなーとそんな印象を持ちました。これは日野小学校に限らず、他の小規模校でも

先生方と子ども達が学校を盛り上げています。また、晋平先生と一体となった小学校だとも感じています。オペレッタ活動も、市民の皆さんにも好評で、この学校の子供達、先生方の活動に大変うれしく思います。この基本方針は、あくまで案としてお示ししています。いろいろご意見お聞きしながら、また教育委員会で十分議して行きたいと思っています。合併ありきということではありません。今後の日程等については、一通り回らせていただき、再度スケジュール等を検討していきます。また地域の方でもっと協議をしたいというような声もございます。

意見

- 中野市の基本構想、基本計画ではどのように検討されたのでしょうか。基本構想、基本計画については小田切市長当時に作成されて以降、今日までまだ作成されていないと聞いています。もし小田切市長当時の基本計画基本構想であれば池田市長の基本構想基本計画はどうなのでしょう。昭和 53 年に小学校の改築の計画はどうであったのか、私がお聞きするには、当時の青木市長が統合の案を出し、説明会も開催されて地域の皆さん方に御理解を得ようとした中で、地域の皆さんのお力の甲斐があり、現地改築ということになったと聞いています。その当時の日野小学校の人数は 330 人です。その経過と今日の統合との整合性についてどうお考えでしょうか。
- 平成 24 年度の日野自治会の総会において、市が統合の案を出すのであれば、日野小学校を存続する会を作りたいたいという事が決定しています。内容については、東山市営住宅の早期改築、住宅団地の造成、地区に子どもが育つ環境づくり、小学校は家庭や地域と連携を図り故郷を愛し心豊かでたくましい子どもを育てるために地域になくってはならない、こういった観点のもとに存続する会を作るということで議決されております。その点についてもご意見等を聞かせてもらいたい。

回答

- 現状の基本計画では、「地域が育て地域が守る教育と文化のまちづくり」ということが大きな柱になっていて、施策として「心豊かでたくましい子どもを育てる学校教育」があり、小・中学校教育の充実として、学校運営、心の教育の充実などが位置づけをされています。現在、市の方で新たな基本計画を策定中であり、体系についてはまだ明確に出されておられません。
- 過日教育委員と市長とで会議を持ちまして、子ども達は集団の中で学ぶこと、地域に根差した教育をすること、子どもにとってどうあるべきかウエイトを置いて考えてきた事を伝えたところ、最善の方策だということで、市長の基本的姿勢だと受け取りました。

意見

- 小田切市長は中野市の基本構想、基本計画を策定されていますが、池田市長になってからは策定されていないんです。だから池田市長はどういう考え方で基本構想、基本計画の中に盛り込むのかお聞きします。

回答

- 市の総合計画は今作成している最中です。地域の方に説明をして、今後の基本方針が示される予定になっております。

意見

- 今の基本計画には、小学校の統合については検討しますと書いてある文面があって、その文面をもって中野市の基本計画、基本構想の審議会へ諮問をし、そして審議会が答申をしています。答申をした時に教育長さんも入っておられるけれども、そのときに検討するとなっただけで、教育委員会として答えたわけではありません。このような会議をもつという事も、教育委員会が独り歩きをしているのではないのでしょうか。市長さんから教育委員会でこの問題を審議してくださいということがあったのですか。

回答

- 市長から基本方針（案）を作りなさいということではなく、教育委員会から審議会に諮問をし、それに対して答申を受けました。答申を受けそれを尊重して案を作るというのが、教育委員会の仕事であったと理解をしています。当然学校の設置者である市長の考えもこれからやりとりをし、各地区の市民の皆様のご意見も参考に、総合的に考えていく状況になると思います。

意見

- 基本計画というのは市で作っていて、そこに検討すると表現されています。教育委員会が作っているんじゃないんです。その検討がどのように今日まで進んできているのか、市長からどういう話があったのか、小田切市長が作ったものがそういうふうになって、池田市長はどういう考えでいるのか、検討するということを、それを聞いて教育委員会にどういう話があったのか、それがわからなければどうして教育委員会が案を作って審議会にかけたのかその辺がよくわかりません。

回答

- 審議会を立ち上げる前に、教育方針の在り方ということで平成 21 年頃から議論し、平成 24 年 5 月に審議会を立ち上げました。市長とは審議会を立ち上げるときには協議を持ち、条例を制定して、審議会委員を決め、答申を受けて協議をしています。これから作る基本計画基本構想につきましてはその点を踏まえながら素案を作っており、25 日から住民説明会が始まりますが、その中で整合性をとるつもりで進めています。

意見

- 基本計画を無視してやっている。基本計画にのせて、議会の議決を受けて、それから説明するのが本来の姿じゃないかと私は思います。

意見

- 昭和 53 年の小学校改築計画の経過、当時の市長さんが説明会を開いて市民の反対にあったという経過についてはどうですか。

回答

- 青木市長さんの時代の各学校の改築計画や統合については承知しています。当時日野、延徳、西条、小田中こういった地名が出てきておりますが、何回も教育委員会が出向いて話し合いを持ったけれども、地域の皆様の十分なお理解が得られず計画が終わってしまったと聞いています。
- 中野小の関係をおっしゃりたいのだと思いますが、小学校については中学校区の中で検討すると答申を受けておりましたので、当然中野小のことも議してきました。当時 1,450 から 1,500 人位の規模であり、もし今それだけの児童がいたら、長野県一の規模となります。その中野小ですが、平成 20 年頃から児童数が減少し、現在は当時の約半分近くに迫っています。現在の 800 人規模というのは長野県下でも大規模校ではありません。他の学校に比べれば人数は多いですが、今後更に児童数の減少が予想され、そこで分割するという事しなくてもいいだろうという結論でございます。

意見

- 学校の統合には色々な事情があると思いますが、皆さんが一番思っていることは、子ども達のために適正な教育を迫っていくということであります。今まで学校というのは地域を単位としてやっていくとか、学校の持っている伝統を尊重してやっていくとかそういう価値観で運営されていたのに、今ガラッと変わろうとしています。つまり子どもたちの教育効果、教育に一番いいことは何かを考えているわけです。その時に中野小学校は、学校統合から話が抜けて、通学区の変更は適切でないと言っているのは中途半端で一方的だと思います。子どもたちの教育効果を考えるのであれば、通学区の変更もやるべきだと思います。たとえば北部地区の学校が平岡小学校と一緒にあって、そのまま高社中学校に行く、つまり小中一貫ですね。これは本当に教育効果を狙ったものなのでしょうか。私が卒業の時も、PTAをやった時も、校長先生が中学に行ったら大きな学校の子達に負けないでと言われました。そのような経験ができるわけで、これも教育効果だと思うのに、小中同じ人がそのまま持ちあがりて中学に行く、これが教育効果なのかわかりませんが、単なる学校の統合だけでやっていいのか疑問があります。

回答

- 子ども達にとってどうあるべきかという事を含め、中山晋平先生、高野辰之先生のゆかりの深いところを大事にするにはどうすればいいか、十分意見を交わしたつもりです。市全体としても、大切にしなければいけないという思いはあります。

意見

- 日野小学校だけの晋平先生ではありません。その郷愁とかノスタルジックとか我々が捨てる、何のためか、子どもたちの教育のためにです。そういう大義名分があまりにも学校の統合だけで進める、中野小学校の分割というところまで話が行かざるを得ないと思います。日野と延徳だけ一緒にして、中野小は何年か経てば小さくなると言いますが、本当に子どものこと考えたら今それを目指すのではないのでしょうか。全体が小さくなるので、中野小だけ小さくなるわけではありません。地域は学校にこだわってはいけない、子どもの教育のためにはそこは我慢しなくてははいけないんだと、そこまで覚悟しているわけですから、目先の学校の統合だけでなく、全体を考えていただきたい。

意見

- 私は日野小学校を残してほしいという観点からお話しします。私は基本方針については賛成です。それから子ども達が集団の中で学ぶことは大賛成です。そういう中で延徳でなく日野小学校を残して欲しいです。これは音楽の関係でよく耳にすることですが、中野市の特徴を外部に発信するときに、音楽では中山晋平先生、久石譲先生、文学では高野辰之先生が必ず出ます。中山晋平先生の母校はどこかという日野小学校です。中山晋平先生はすばらしい文化財です。日野小学校の近くに中山晋平先生の生家や記念館などがあります。晋平先生が育った校舎とは違い、これも見るとすばらしいです。これらを背景とした子どもたちの音楽活動もすばらしい。そういうことを考えた時、ぜひ日野小学校を残して欲しいです。
- 豊田地区、北部、西部、南部小規模校を一体化しようということですが、中野小学校はどうなんだと、中野小学校だって西間の子達は中野小に通うのは地理的に大変です。昔は上小田中の子も昔は日野小に来ていたわけですから、中野小学校も含めて考えていただきたい。

意見

- 日野小学校でも通学区の関係で中野小学校に行っている子がいるかと思いますが、将来日野小学校と延徳小学校が一緒になっても1クラスで小規模です。そのイメージがあって、親としては中野小学校に行きたい人が広がってくるのではと思います。今の段階で中野小学校を分割し、ある程度平均化して、日野、延徳小学校がいい雰囲気盛り上げるようなことを考えていただきたい。将来更に減る可能性もあり、今車の時代ですから、もっと中野小学校の方へ行ってしまい、日野延徳小がもっと減ってしまいます。やはり、中野小学校も含めて学校の適正化を考えていただきたい。

意見

- 関係者の皆さんは都合のいいデータだけ出して、この数字を見てください、これではやっていけないんですよ、合併したくないんですか、というような資料に見えます。それから中野小学校の問題ですが、小さい小学校だけが悪いわけじゃないと、中野小学校

が現状のままというのは負と考えたほうが良いと思います。何年か前に中野南小学校と名前を変えて学区を割ろうという話になったそうですが、立ち消えになってしまいました。でもまた復活してやりたいと、そして日野の我々とすれば、なぜ日野の学校の子ども達が延徳へ行かないといけないのか、それなら延徳の子が日野へ来るべきで、日野の者としてはそう考えます。中野小学校は大きな学校だから先生もたくさんいますが、昔とんでもない先生がいて、私は間山だからぽんぽこ温泉のサウナに行くのですが、もう5時にならないうちに中野小学校の先生がサウナに入りに来ていました。そんな人は先生じゃない、5時にサウナに入れるのはろくな先生じゃない。そういう評価になっちゃった訳です。そういう弊害もあったので、中野小学校も配分するという配慮が必要だと思います。

回答

- 中野小学校については、現状のままだよという検討結果でございます。あともう1点は、行政区の見直し、通学区の見直し、学校選択制はとらないという方針で案を作らせていただきました。

意見

- 9月1日のローカル紙によれば、決定時期を遅らせる意向だとかこういう報道がされていましたがどうですか。

回答

- 遅らせるということを決めてはおりません。スケジュール的に甘い部分があったということは反省していますが、全ての会場の説明会でお聞きした中で、スケジュールを含め、基本方針の統合の関係を再度見直しをして検討するということであります。

意見

- 11月基本方針決定、それを受けて28年度の予算を要求して議会に通すことになっていますが、そこを変えないとすれば、11月に決めるんだということになります。ローカルさんの記事を見ると、ずれるような形になっていますが。

回答

- 今色々意見をいただいております。再度協議の場を設けて欲しいとか、説明会を持って欲しいとか、色々要望もございますので、総合的に判断し、スケジュールも含め再度見直しをかけたいと思っています。

意見

- 先ほどの話の中で、中山晋平先生の故郷というお話がありましたが、基本方針を読んでもみますと、高野辰之先生は出てきますが、中山晋平先生のことは一言も文言がありません。わざとスルーしたのでしょうか。
- よりよい教育環境、質の向上とっていますが、基本方針全体に数字を増やせば質の向上、よりよい教育ができるというようにどうしても捉えてしまいます。

回答

- 1クラスが1桁あるいは10人になってきますと、先生方の努力とか子どもさんの一生懸命がんばってる姿とかわかるのですが、体育でいいますと、ドッジボールのようなチームを組んでやることが大変やりにくくなっている。じゃあ何を工夫しているかというのと、隣の学年と合わせてみたり、それでも人数が足りなくて2つから3つくらい学年が離れてきますと、小学生では体格差がありますので、授業がおもしろいとはならない現実があります。また社会科、理科、算数もそうですが、数人でひとつの課題を持って追及していく学習となった時、5～6人のグループでそれぞれ話し合い、その考えをまたみんなで話し合っ決めて行くという学び方のスタイルができにくくなります。運動会の学年別のかけっこも、いつも同じ友達と走ってすぐ終わってしまうことがあります。
- 晋平先生のことをスルーした、そんなことを考えた事はありません。晋平さんの話は何度も出しました。先輩である偉人たちのことを、どう学習指導要領の範囲で取り入れて子ども達に指導をするかがこれから大切になってきます。

意見

- そういうお話をお聞きして安心しました。少し前に新野で若い皆さんからも話を聞く機会を区長さんに持っていただいたのですが、その中で確かに小規模になると、世帯でいえば7世帯しかないということもあり、例えばPTAの運営も大変だと聞きました。日野小を存続させて欲しいですが、この建物にこだわらず、音楽会や運動会も、延徳へ行ったり日野へ来てもらったり、学習内容にしても、延徳と切磋琢磨できるような、屋根、囲いをとっぱらっての学習もできると思います。その辺をもっと検討されたいかがかと思います。

意見

- 日野小と延徳小は統合し位置は延徳小学校とする。あくまで案ということですが、延徳小に決まった決め手をお聞きしたいのですが。

回答

- 今ある校舎を有効に使うというところからスタートし、使う場合にはこちらに来ても向こうに行っても施設面で改修が必要になります。そんな中で延徳の方が改修の費用や改修する量などを比較して、やはり延徳の方がいいという結論に達したわけです。

意見

- 日野小と延徳小の改修費用はいくらというのはわかるのでしょうか。

回答

- 改修については、今ある物をできるだけ使うということですが、その他にも全体のクラス数からの試算等ありますので、一概に数字では単純に出すことはできません。費用は安い高いだけではなく総合的に判断した結果でございます。

意見

- 今回の統合は吸収にしか見えません。もし統合であるならば、もう少し違うスタンスで話し合いを持っていただきたい。いきなり新聞でぼんとでて、本当に驚きました。ちょうど100年記念の110周年の時だったか、今までのPTA役員さん方や教育委員会にもご苦労いただいて、中庭も整備させていただきました。私も仕事柄色々な学校をまわっていますが、日野小学校ほど立派な学校はありません。日野小学校の保護者達が資源回収をやり、その資金をためて活動を続けるくらい地元に着のある学校です。日野小学校に関しては中山晋平先生しかり、本当に特別な思いがある学校であり、特別な思いを持たれる保護者や地域の方もたくさんいると思います。最初から吸収という感じにしていますので、もう少し話し合いの場をもっていただいて進めてください。

意見

- 6月20日すぎに新聞紙上で突然この話を聞いたわけですが、このことは非常に地域にとってこれから考えるべきことだと思っています。でもこの校舎は50年60年は絶対使うべきだと思います。まだ30年しかたっていません。これはやはりもったいないです。こんなにすばらしい体育館も30年だなんてとんでもない話です。やっぱり50年使ってください。50年の中でじゃあどうしようだとかいうことを考えて欲しいです。そんなにあわてて統合をする必要はないです。日野小に通っている子ども達に聞いたことがあります。日野が延徳と一緒に頑張って勉強したらどうだいと聞いたところ「とんでもない、そんなこと嫌です」と言いました。この学校は人権の作文を1年から書きます。私なんて字しか書けなかったのに、先生のすばらしい指導によって文を書き上げるわけです。本当に日野小学校の先生というのは真剣勝負です。6月に音楽会がありました。最後歌が終わったときにお父さん、お母さんが感動して泣いていました。音楽の先生がすばらしい、そして、音楽の先生は余裕をもってやっていたんだと思います。35人なりますと、日野小学校のきめの細かい教育は絶対できません。これは日野小学校が10人から15人、20人これくらいの規模でいますからできます。私が一番心配しているのはみなみ保育園のお母さんたちはよく知っていて、延徳はちょっと学級崩壊っぽいと言っています。皆さんそういうニュース入ってないでしょうが、とてもそんなところに行かせることはできません。日野小学校は延徳小学校の本校で、あっちが分校です。とても日野小学校の先生たちを分校なんかに行かせることはできません。いろいろ日野の文化、歴史そして

また中野の文化、歴史ありますけれども、そういうものを十分に考えていただきたいと思います。

意見

- 適正規模ということでお伺いします。1 ページのところで快適な集団生活のなかで児童生徒が自ら学び考える力を育成するとともに家庭や地域と連携し、個性を生かす教育を推進していかなければならないこれはそのとおりだと思います。その上で適正規模の基本的な考え方6点ありますが、それを踏まえて小学校においては2学級以上が望ましいとお考えになったのでしょうか。

回答

- この方針案の前段で、審議会の中でこの規模について白熱した議論をやっていただきました。ここへたどり着くまでには、相当議した結果であります。

意見

- この1学年2学級以上という考え方からしますと、例えば大規模な中野小学校や2学級以上ある平野小学校と小規模な日野小学校を比較した場合、具体的にそれぞれの観点で、2学級以上だから中野小学校の規模の方がこういうことが実現しやすい、日野小学校の今の規模では厳しいということを提示していただきたい。

回答

- 日野小の教育活動は素晴らしいと思っているわけですが、しかし先ほども言いましたが、グループを作って教科学習をしたり、体育や音楽の授業もたくさん子どもと日々過ごしてもらいたいという結論でございます。

意見

- もしそのような活動が必要だとすれば、学校の枠組みを越えながら子ども達同士が交流することも可能であります。現状では、この規模になっていない学校が他にもあります。ということは、2学級以下の適正でない学校に対し、どのような具体的施策を展開されるのでしょうか。

回答

- 特にどこの小学校とは申しませんが、隣接する小学校と登山、キャンプ、社会見学など合同で動いている学校もあります。活発な交流活動が大切になって参ります。

意見

- 北部の小学校はそのような状況であるのは承知していますが、日野小と延徳小の間には、そういうことがあるのでしょうか。

回答

- 数の点でどうかといわれると、まだまだ少ないかなと感じています。

意見

- それならば、今必要だと感じておられることを、具体的に計画していただき、それぞれの小学校が交流をできるようにしていく、そういう中で初めてじゃあこういうことが進んでいけば学校統合も可能だという方向性が見えてくると思います。
- 資料5を見せていただきますと、平成32年度の推計人数で、統合後のクラス数がありますが、日野延徳の統合後、豊井永田の統合後、やはりどうしても1学年1クラスになってしまいます。多くの学年が。こういう現実がありながら、やはり2学級以上が適正だということであれば、この計画の根本自体がそもそも根底から崩れるのではないかと思います。

意見

- 結局理想の教育を求めながら、人数は増えるけれども、学級数が変わらない、それも通学区も変更しないという前提でやっているということですが、その理由はなんですか。

回答

- 通学区を変えた場合、行政区のつきあいなどすべて変わってしまいます。今回はそこまで厳しいだろうと総合的に判断し、通学区と行政区の見直しをしないということで、この方針案をまとめました。

意見

- 学校の思いや地域の思いが色々あって、通学区を変えて欲しくないというのは当然人間の心情としてわかりますが、子どもたちの教育のために規模を考えないといけないというのであれば徹底的にやってもらいたい。そういうものがないから説得力がない。財政的な事情もあると思いますが、財政より優先させて欲しいと思います。30年、50年かけるかわかりませんが、根本から考えて欲しい。通学区も、本当に中野市の教育を考えるのでしたらガラガラポンです。

意見

- 市議員さんにお聞きしたいのですが、中野市の基本構想、基本計画というのは、教育委員会が何を言おうとそれが一番基本です。これが教育委員会の方へその審議を練って答申された、諮問された、その経過は議会としてどのように受けとめておったのか。議会でもどのように審議されたのか。くどくなりますが、本来であれば基本計画の中できちんとうたわなければいけない。それを怠って、教育委員会にすべて任せているのではないですか。

回答

- 審議会の作るときには条例を作りまして、それを議会でお認めいただいた経過があります。

意見

- 条例を作ったときに議会はどのように審議したのか。基本計画の何のための中野市の基本構想、基本計画なのか。基本計画の審議会にも教育長がでていると思いますが。

回答

- 現在の基本計画でも小学校の統合を検討するとなっており、適正規模の審議会でも2年間検討してきました。今作成している基本計画は、当然この部分も含めて審議いただいておりますので、ご了承ください。

意見

- 今までの説明会の参加人数がわかったら一会場ずつ教えてください。

回答

- 科野小 54 人、長丘小 50 人、平岡小 54 人、倭小 58 人、豊井が 100 人、永田が 90 人、中野小 14 人です。

意見

- 要は大規模で残る小学校の参加人数が少ないということがはっきりしてますね。

意見

- 今回のことは非常に大きな問題だということで、資料等いただきながら各区長さんを中心にして、理事会でも話し合い、そして協議してまいりました。そして各区の中でも、区長経験者を含めた協議会を開き、そこで意見集約をし、それを持ち寄って理事会等でも意見をみんなでも話し合いました。やはり地域の学校という関わりは非常に深いという事を申し上げたい。日野小学校というのは創立 100 数十年経っており、住民のいわゆるよりどころです。晋平の里まつり、その昔は村民運動会もここでやり、コミュニティとしての地域の集まる場所、地域、村で言えば神社やお寺のようなものです。我々の故郷でもあるというところも大変大事なところで、地域の文化や暮らしを今まで担ってきた大切な機能を持った場所でもあります。先日音楽会を私聞かせていただきましたが、一人ひとりが大変すばらしい個性を持った歌い方、そして演奏を聴きまして、先ほど涙が出ると言った話がありましたがそのとおりでございます。これは小さいからこそできる学校の在り方、生徒の育ち方だということに思っています。我々は地域をあげて小さな学校を応援する体制はしっかりできています。せつかくできているものを壊す必要はないということぜひ残していただきたい。そしてここに P T A の方や保護者の方もたくさん

いらっしゃると思いますが、自分の子ども達がこの小学校に通わせていて本当によかったと思っている方が大多数だと思います。この小学校の統廃合の問題は地域から学校がなくなるといったそれだけの問題ではなくて、日野地域全体のビジョン、それから将来の展望、この地域づくり、くらし、文化こういったものまで掘り下げて考えなければならぬ問題だと思います。この学校問題を契機に、地域の将来を、みなさん行政に任せるとはなくて、我々も考えて検討していく必要があるというふうに思っています。とにかくこの問題の主役は、教育長さん、教育委員会ではない、あくまで子ども達であり保護者であり地域の住民であるということをしっかり認識を持っていただいて、じっくり、拙速ではなく、時間をかけそしてみんなが理解した中で進めていただきたいと思えます。

意見

- 今中野小学校が 14 人という話を聞いて驚きました。中野小学校だって 800 人からいみると、音楽会や運動会も、うちの子はどこにいるのか、何をやっているのかわからないというおじいちゃん、おばあちゃんが結局多いんです。だから中野小学校も、例えば小田中の方は日野小学校に来るといのはどうですか。そうでなくとも、日野小学校が素晴らしい教育をするから、日野小学校にうちの子を入れてみたいという人もいます。こういうこともこれから考えながら進めていっていただきたい。

5 閉会 (PM8 : 28)